

知事記者会見の概要

日 時：令和5年7月28日(金) 10:05～10:48

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 令和4年8月豪雨災害に関連して

フリー質問

- (1) JR米坂線の復旧について
- (2) 山形空港及び庄内空港の滑走路延長について
- (3) 新型コロナウイルス新規感染者数の増加について
- (4) 「マイナ保険証」について
- (5) 「株式会社ビッグモーター」店舗前街路樹の枯死問題について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

毎日、暑い日が続いております。今日も猛暑が予想されておりますので、県民の皆様には、くれぐれも熱中症にならないように気を付けていただきたいと思います。のどが渇いていなくても、こまめに水分や塩分を取るなど心がけていただきたいと思います。そしてまた、屋内でも熱中症にかかると言われておりますので、適切にエアコンとか冷房をですね、そういったものを使用して、本当にくれぐれも熱中症にならないように気を付けていただきますようお願いいたします。

それから、活発な梅雨前線などの影響が続いたことで、九州北部地方から北陸地方に加え、今月 15 日からは、秋田県を中心に東北北部で、非常に激しい雨が降り、死傷者などの人的被害や家屋の全壊など、甚大な被害が発生いたしました。

お亡くなりになった方やその御遺族に対し深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。1 日も早い復旧を願っております。

本県では、先週 22 日、梅雨明けが発表されましたが、今後も、台風に伴う大雨の影響などによる災害の発生が危惧されます。県民の皆様には、御自身が住んでいる地域の避難所や避難経路の確認など、日頃から災害に備えていただきますようお願いいたします。

なお、県庁ロビーをはじめ、各総合支庁に募金箱を設置しております。秋田県のほか、九州地方、福岡県、佐賀県、大分県、それから島根県、富山県を対象とした「令和 5 年 7 月 7 日からの大雨災害義援金」の受付を行っておりますので、県民の皆様には是非ご協力いただきますようお願いいたします。

次に、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者は、先週 7 月 21 日公表された 1 定点あたりの週平均が 11.04 人でありました。これは、9 週間連続の増加となったところです。このうち 30 の府県では、1 定点あたり 10 人を超えておりまして、特に沖縄県や九州地方など西日本を中心に感染拡大が見られるところです。

県内では、一昨日 7 月 26 日に公表した 1 定点当たりの新規感染者は 7.44 であります。5 類移行後では最も高い値となりました。これまで概ね横ばいで推移してきておりましたが、直近の増加傾向を踏まえ、今後の感染動向を注視する必要があると捉えております。

夏休みや今後のお盆の時期を迎え、旅行や帰省などで人と接する機会が多くなることが予想されます。

5 類へ移行されましたが、新型コロナが終息した訳ではありません。県民の皆様には、重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、換気の徹底のほか、医療機関や高齢者施設を訪問する際にはマスクを着用するなど、場面に応じた感染対策を引き続き心がけていただきますようお願いいたします。

願いたします。

また、ワクチン接種につきましては、高齢者や基礎疾患のある方などを対象とした接種が各市町村で実施されておりますので、希望される方は、早めの接種をご検討ください。

なお、発熱や咳などの体調不良時に備え、抗原検査キットや解熱鎮痛薬などをあらかじめご準備されることをお勧めいたします。

それから、県内の夏祭りについて申し上げます。

梅雨も明けて、夏本番になりました。いよいよ花火大会や夏祭りが県内各地で繰り広げられます。

明日 29 日土曜日は、米沢市の松川河川敷で「第 1 回よねざわ大花火大会」が開催され、約 6,000 発の花火が打ち上げられます。8 月 5 日は 4 年ぶりの開催となる「酒田の花火」、14 日は「山形大花火大会」、15 日は今年 101 回目を迎える山形県内最古の花火大会である大江町の「水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会」、そして 19 日は 30 回目となる「赤川花火記念大会」など、このほかにも県内各地で花火が真夏の夜空を彩ります。

夏祭りでは、来週 8 月 5 日から 3 日間、山形市で第 61 回目となる「山形花笠まつり」が開催され、131 団体、約 9,000 人の踊り手たちが華麗な舞を繰り広げます。また、18 日から 20 日までは村山市の「むらやま徳内まつり」、24 日から 26 日まではユネスコ無形文化遺産に登録されている「新庄まつり」、そして 27 日、28 日は「おばなざわ花笠まつり」が開催されます。

ここですべてを紹介することはできませんが、この夏、県内各地で様々な祭りやイベントが繰り広げられますので、県内外、そして海外の皆様から足を運んでいただき、山形の伝統や文化に触れて、大いに楽しんでいただければと思っております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

河北新報の奥島です。よろしく申し上げます。

昨年 8 月に山形県内を襲った豪雨災害について数点、お伺いいたします。まずですね、8 月 3 日で 1 年を迎えることに対する所感と、被害を受けた道路や河川、あと農地の復旧状況について教えてください。

知事

はい、本県の風水害としては、過去最大の被害、その被害額が約 480 億円ございました、そのように過去最大となった令和 4 年 8 月の豪雨災害からまもなく 1 年を迎えます。この災害により、いまだ 1 名の方が行方不明となっております。一刻も早く発見されることを心から願

っておりますとともに、被害を受けられた県民の皆様にも、改めてお見舞いを申し上げます。

また、災害発生時には、市町村、消防はもとより、自衛隊や政府の関係機関の迅速な対応や、企業や団体、ボランティアの方々からもお力添えをいただきました。この場を借りて、こうした活動や御協力に改めて深く感謝を申し上げたいと思います。

本県では令和2年7月にも甚大な水害が発生したわけでありまして、災害は「忘れないうちにやって来る」ようになりました。頻発・激甚化する災害を完全に防ぐ難しさはありますが、県民の皆様の命を守るということを第一に、引き続き、市町村や関係機関、県民の皆様とともに、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策に取り組み、万一災害に襲われたとしても、短時間で回復・復興が可能なレジリエントな社会を形成していくことが重要であると強く感じております。

それから、道路、河川の復旧状況についてのご質問であります。

昨年8月の大雨による災害への対応として、県では約98億円の工事費を確保し、道路及び河川の復旧工事を鋭意進めているところであります。今月末までに約8割を超える工事に着手しております。

まず、道路の復旧状況についてですが、特に被害規模の大きかった米沢市入田沢地内の一般国道121号の崩壊箇所につきましては、国土交通省から権限代行による応急復旧工事を実施していただき、大規模な崩落にもかかわらず、被災から3か月で片側交互通行により通行を再開することができました。現在は、全面開通に向けた本復旧工事を鋭意進めているところであります。

次に、河川の復旧状況についてですが、大きな被害が発生した飯豊町の小白川と萩生川におきまして、流下能力の向上を図るための河道拡幅や河床掘削、蛇行の是正のほか、土砂や流木の捕捉効果の増大のための砂防えん堤の改良などの対策に取り組んでおります。

引き続き、県民のみなさまの安全・安心の確保のため、早期の復旧・復興に取り組んでまいりたいと考えております。

記者

被災したJR米坂線も一部不通となって1年が経つわけですが、復旧にかなり時間を要すると見込まれている中で、今JRが暫定措置として行っている、米沢ー今泉間の臨時ダイヤについて、便をもっと増やしてほしいだったりとか崩落した橋梁の手前まで順次運転を再開してほしいといった声も地元の一部から聞こえています。JRの現状の対応というのが、住民にとって十分と考えるかどうか教えてください。

知事

はい。米坂線についてですけれども、米坂線は、現在、長井市の今泉駅から新潟県村上市の坂町駅の間で運行できず、バスによる代行輸送が行われております。

バス代行輸送により、鉄道に比べ、通学などで地域の皆様の負担が増えている状況にあります。その内容なんですけれども、朝の出発時間が早くなったとか、鉄道よりも所要時間が長くなったというようなことであります。現在までJR東日本からは、全線復旧の目途が示されておられません、こうした不便な状況が続いていることを大変残念に思っております。

県ではこれまでもJR東日本に対し、早期の全線復旧を強く要望するとともに、復旧までの間は、利用者の利便性に配慮して代行バスを運行することや、飯豊町の羽前椿駅から今泉駅の間で、列車の運行を段階的に再開することを要望してまいりました。

代行バスにつきましては、JR東日本では利用者の声を聴いて、順次改善を図りながら運行していると伺っておりますが、引き続き地域住民から寄せられる声に真摯に対応していただくよう、JR東日本に働きかけてまいりたいと考えております。

記者

次に、冒頭のご発言にもありましたが、秋田県でも今月15日から水害に見舞われましたが、県として支援というのは、今後も予定があるかということと、秋田市内で確認されたような都市型の洪水というものに県としてどのように備えていくかお聞かせください。

知事

はい。秋田県の大雨被害に対する本県の支援の対応ですけれども、私から秋田県の佐竹知事に対して直接、電話でお見舞いと協力の申し出を行ったところであります。

その後ですね、全国知事会及び北海道・東北8道県相互応援協定の幹事であり、北海道が秋田県に対し、支援の必要について確認をしておりますが、現時点で、秋田県から支援要請はいただけていない状況でございます。

今後秋田県から具体的な支援要請のお話があれば、本県として速やかに対応したいと考えているところです。

なお、現在秋田県への義援金について、冒頭申し上げましたが、県庁ロビーをはじめ各総合支庁に募金箱を設置して受付を行っているところでございます。

それから、都市型の洪水への備えということでもあります。

内水氾濫につきましては、降雨から浸水までの時間が短い傾向にあるため、早めの避難等の対応が何より重要でございます。

県内の市町村においては、内水氾濫の浸水想定区域を公表しているところもありますので、まずは、ハザードマップなどでお住まいの地域の危険性などを確認していただきたいと思えます。

また、内水氾濫による浸水等が発生した場合、その解消にポンプによる排水が有効であります。そのため、県では、河川部門でポンプ9台と下水部門でポンプ車2台を配備し、都市浸水の解消にも役立てることとしております。

このたびの秋田県の大雨では、住宅の浸水に加え、車両の浸水被害も多数確認され、動かな

くなった車両の放置により復旧作業に支障が出たとの報道がございます。

こうした車両の浸水被害を未然に防ぐため、本県では、山形県遊技業協同組合と協定を締結し、パチンコ店の立体駐車場等を車両の一時退避場所として利用できるようにしているところ
です。

県管理道路では、アンダーパスなど冠水が想定される危険箇所が22箇所あります。その全ての
箇所において、道路壁面に路面から50センチメートルの位置に黄色、1メートルの位置に赤
の水深ラインを表示し、注意を促す対策とともに、万が一車両が水没した場合も、速やかな救
助要請と確実な救助を行うため、アンダーの名称と消防・警察への連絡先を記載した表示板を
設置しております。

さらに、交通量の多いアンダーパスには、冠水をセンサーで感知し、即座に表示する「電光
表示板」を設置し、車両の侵入を防止する対策を実施しております。

なお、県警察本部などでは、アンダーパスの冠水により水没した車両からの救助訓練を行っ
ております。

県としましては、住民の皆様を第一にとの考えのもと、引き続き、市町村に対して、躊躇
なく避難指示等を発令するよう要請しますとともに、県民の皆様へは身を守る「早めの避難」
を積極的に呼びかけてまいりたいと考えているところです。

記者

すいません、先ほどのお答えに関連して、1点お伺いしたいのですが、米坂線の話に戻って、
毎週聞いているのですが、改めて県の費用負担に関する考えとですね、1年が経って復旧に向
けた具体的な動きが見えていない現状についてどのように思われるかお聞かせください。

知事

はい。米坂線の復旧につきましては、4月にJR東日本から、工事費用が約86億円、工期は着
工から5年程度との見込みが公表されました。そして今後の進め方については、沿線自治体等
関係者に説明したうえで相談していきたいという旨の考えが示されたところであります。

これまで、JR東日本からは、被災状況や工事費用の概略について説明がありましたけれど
も、米坂線の復旧の進め方についての考えはまだ示されておられません。

米坂線は、地域住民の日々の暮らしを支える、なくてはならない交通機関であります。本県
と新潟県とをつなぐ横軸の鉄道ネットワークとして、通学や観光、ビジネスなど様々な面で利
用が期待される大変重要な鉄道路線であります。

災害で被害を受けたものでありますので、鉄道として復旧することが基本であると考えてお
りまして、JR東日本に対し、復旧に向けた考えを早期に示すとともに、1日も早い鉄道として
の復旧に取り組むよう引き続き働きかけてまいります。

また、先日の全国知事会議におきましても、新潟県の花角知事をはじめとする知事の方々か
ら、鉄道の災害復旧とローカル鉄道のあり方の議論は分けて考えるべきだといったご意見や、

政府として鉄道ネットワークのあり方を示していく必要があるといったご意見が出ました。提言にもそうした趣旨が盛り込まれております。全国知事会として今後、政府に対して要望活動も行っていくこととなっております。

被災直後に斉藤国土交通大臣に要望した際にも「ローカル線をどうするかという議論と災害復旧とは分けて考えるべき」とのご発言があったところであります。政府においても、復旧に向けてしっかりと取り組んでいただくよう求めてまいりたいと考えております。

☆フリー質問

記者

読売新聞の鈴木と申します。よろしくお願いします。

今の米坂線の問題に関連してなんですけれども、これまで知事のほうは、早期復旧というものを強く求めてこられたと思うのですが、先般、JR東日本の新潟支社長が記者会見のほうで、元に戻す復旧の課題と合わせて赤字路線であるという利用者減少の課題の2つの側面で議論していくというような発言がございました。この発言に対して知事としての受け止めと、何か考えていらっしゃる対応があれば教えてください。

知事

はい。そうですね。6月22日付けで着任した新潟支社の支社長さんが、管轄する地域の首長さんたちを訪問して着任のご挨拶を行ったと聞いております。

その挨拶の場を借りてですね、飯豊町そして小国町の両方の町長さんが米坂線の早期復旧について、改めて要請をしたというふうに聞いているところであります。ですから、支社長さんのお考えと言いますか、おっしゃって、それをお聞きした上で両町長さん、地元の町長さんたちが早期の復旧ということで改めて要請をしたと。それは報道で聞いておりますけれども、そういうやり取りがあったということは承知をしております。

ただ私自身はまだ聞いておりませんで、他の自治体、米沢とか、長井とかもあるかと思っておりますけど、全員が聞いたわけでもございません。JR全体としての復旧の方向ということについて、進め方についてお話があったわけではありませんので、一部でそういうやり取りがあったということを承知をしております、やはりJR東日本としてですね、どういう進め方をしていきたいのか、そしてまた、全国知事会でも新潟県知事ともちょっとお会いしたわけなんですけど、やはり政府としてもしっかりした対応をしていただきたいね、というようなことになりましたので、やっぱりJR東日本と政府に対して、復旧に向けてですね、これからもやはり要請してまいりたいと、働きかけてまいりたいと考えております。

記者

すいません、あわせて、JRのほうはですね、先般、県と今後の進め方を今調整している最

中だというふうな発言もあったのですが、現状どこまでそういった調整が進んでいるのかというところを伺えますでしょうか。

知事

はい。JR東日本とは、事務方でお話はしているのかなと、いろいろお話ししていると聞いておりますけれども、まずはですね、合意とかそういうことではありませんので、しっかりと詰めてもらいたいというふうに思っております。

記者

分かりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の鈴木です。おはようございます。

私からは、空港の滑走路についてお話を伺いたいと思います。インバウンドの回復、全国的に顕著になっています。特に大都市でのインバウンドはものすごく回復しているという話を耳にします。本県も秋に台湾からのチャーター便の就航復活という予定がされています。県は、山形空港・庄内空港について、国際空港として定期便・チャーター便を受け入れるためには、現在の2,000メートルから2,500メートルへの延長が必要ということで、国に毎年要望しています。

改めてですね、このインバウンドの拡大が見えているこのタイミングでですね、知事に滑走路延長の必要性とその実現に向けた課題はどう捉えていらっしゃるかお聞きしたいと思います。

知事

はい。ではお答えいたします。

交流人口の拡大を図り、地域活性化を実現するためには、インバウンドの拡大というのは大変重要な課題であると思っています。海外からの観光客に県内をより多く周遊・宿泊していただくためには、外国から県内空港に直接乗り入れする便を増やすことが有効であります。そのために必要な山形空港・庄内空港の機能強化策の一つとして、滑走路延長は重要な要素であると思っています。

直接乗り入れに必要な滑走路の長さですが、タイやシンガポールなどアジアでも比較的遠方の国の場合、搭載燃料の関係で機材が大型化するため、2,500メートルが必要だと言われております。また、現在直接乗り入れを行っている台湾などの近距離の国でも、航空会社によりましては、社内ルールや保有している機材によって滑走路が2,500メートル必要な会社もあるようです。

こうしたことから、滑走路を2,000メートルから2,500メートルに延長しますと、遠方の国が

らの直接乗り入れが期待できますとともに、近距離の国の多くの航空会社から直接乗り入れも期待でき、インバウンドが拡大する可能性があると考えております。

一方、滑走路延長の整備に当たりましては、国庫補助を活用することが必須であります。国からですね、費用対効果ということを求められているんですけども、それはそれでしっかりと対応していかなければいけないと思っておりますが、ただ、国際交流とかですね、このインバウンドということについて、国策としてやっぱりしっかりと政府も力を入れていくという方向だと思っておりますので、そういったことを考えた場合、地方空港の国際化ということに対してもですね、しっかりと補助をするという、そういうことが私は大事だと思っておりますので、政府に対して働きかけていきたいと思っております。

県内の両空港とも多大な整備費用が想定されます。現状見込まれるインバウンド需要だけでは費用を効果が上回るのは難しいということはやっぱり大きな課題だというふうに思っておりますけども、今申し上げたようにですね、やはり前向きに地方が活性化に向けて力を入れていくという場合に、政府も一緒になって協力、助成していただくということが大事だというふうに思っています。もちろん来県するインバウンド客の実績を着実に増やすということも重要であります。

県では県内空港へのチャーター便誘致活動や旅行博出展、商談会といった海外プロモーションの強化ですとか、県内外の空港を利用して入国して県内を周遊・宿泊する旅行商品に対しての支援などですね、インバウンド需要の回復に向けた取組みも行っています。そういった取組みを通して、山形空港・庄内空港の滑走路延長について、今後とも関係部局と連携し、多様な観点から必要性や効果の検討を進めてまいりたいと考えております。

記者

関連して、1点だけ。コロナ前から航空会社に対して直接トップセールスをされているわけですけども、その席上で、山形空港は2,000メートルで短いからなかなか難しいんだなんていうお話が出たことはあるのでしょうか。

知事

あります。やはり、もっと長かったらいいとかですね、やっぱり安全性ということで心配だというようなことを言われました。特に冬とかですね、言われましたけども、また人気があるのが冬なんですよね。雪を見たいというお客さんが南方には多いものですから。でも冬になると空港の滑走路が短いとかですね、そういったことに対して不安があるようであります。

ですから私はその時お答えするのは、雪に対しての除雪は本当にしっかりと行っているから何の心配もありませんということと、それから機材によって、本当に大型の場合はですね、いろいろご心配もあるかとは思いますが、実際はですね、大丈夫なんですというようなことも申し上げたりしながらですね、営業活動を行ってきました。ただ、やっぱりネックになるところがあるのは事実です。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの都倉と申します。お願いします。

最初にコロナの関係で、5類以降高い水準が出たということなんですけども、知事が今お考えになる、多分今5類以降最多になっている要因がもしあるならば、ちょっとお伺いできればと思います。

知事

要因ですか。

記者

こういうことが考えられるんじゃないとか、こういうことが考えられるからこういうことに注意してほしいとか、もしそういうことがあればお願いします。

知事

そうですね、全国を見てもみますとですね、5類になった直後と言いますか、固有名詞を言ってしまうんですけども、沖縄県が断トツ高かったんですよ。ですから、どうしてなのかなというようなことを専門家の方に聞いてみたことがあるんです。そしたら専門家の方はですね、一概には言えません、特定できませんけれども、やはり5類になったということで、沖縄県内外からですね、たくさんの旅行客が集まったというようなこともあるかと思うし、また、暖かいところでもありますので、早くに冷房を始めて、換気というものをなかなかしなくなったのではないかと、そういった要素が考えられると思いますという、断定ではないんですけども、そういったことを伺ったところでもあります。

それがやはり、いつも交流というのはつながっていますので、それが九州のほうに今来ておりますし、だんだんと全国につながっていく可能性はあるかというふうに思っています。

記者

わかりました。

すいません、もう1点。マイナ保険証の関係で、来年秋に政府は健康保険証を廃止してマイナンバーカードと一体にするという方針を出していますけれども、政府内からもその廃止の時期を巡って延期をすとかしないとか、そういうことも考えているという声もあります。

知事としてですね、今、延期をするべきなのかとか、このままでいいのかとか、どのような所感があるのか教えていただければと思います。

知事

はい。政府では、マイナンバーがですね、いろいろとトラブルがあるというようなことなんですけども、トラブルの早期解決や個人情報の保護と制度の信頼回復に向けてマイナンバーの情報連携の総点検を開始したところであります。本県としても県分の事務の点検と、市町村事務の点検結果の取りまとめを行うこととしております。市町村と連携しながらしっかりと総点検に取り組むんですけれども、私的には、第一義的にはやっぱり国民がですね、安心して使えるというその信頼をしっかりと回復して、その上で移行していただくのがよろしいのではないかなと思っております。

記者

そのためには、やっぱり来年の秋までだと期間として短いとか、適切だとか、どういうふうなお考えでしょうか。

知事

そうですね、実際に点検するのは市町村ということになると思いますので、市町村がどのくらいそれにいろいろ力を入れなきゃいけないというようなことで、来年の秋までということだがね、どういうふうな状況になるのか、やっぱりしっかりとお聞きをして、政府には伝えていきたいと思っています。

仮にとか、もしかかいうようなことはあまり言いたくないんですけれども、やっぱり期間を区切ってというようなことよりは、しっかりと信頼を回復できるということが大事だというふうに私は思っています。

記者

そう考えるのであれば、今から話を聞いていくということだと思うんですけども、やはり秋というところで区切らないで、しっかりと国民の信頼が得られるまではしっかりと検証すべきだというふうなお考えでしょうか。

知事

そうですね。やっぱり土台をしっかりとこそ、そのあとのデジタル化と言いますか、マイナンバーカードの進め方と言いますか、順調に進むというふうに思いますので、土台をしっかりと固めるというのはとても大事なことではないかというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。

記者

共同通信の中村です。よろしくお願いします。

コロナの話に戻るんですけども、冒頭でもこれから夏祭りシーズンが本格化するというようなことがありますが、すると沖縄と似たような状況にも多分これからなると思います。県内外から旅行客が多く集まってくるということで、自治体としても多分これを待ち望んでいたとか、観光面でも地域経済面でも大いに期待していたところだとは思いますが、結構来客が集まるということで、知事として感染者が増えるのではないかという懸念がもしあれば教えてください。

知事

そうですね、現在の状況を見ますと、山形県は一定点当たりの新規感染者数ですね、これは全国の中で見ると少ない状況にあります。先ほど申し上げたように、全国では9週間連続で増加をしているということですが、山形県では県内は5類移行後は週によって増えたり減ったりということで増減があって、横ばいだったんですね。そして緩やかな増加傾向になってくるのかなというふうに、そういう状況かと捉えております。

それで、一番心配するのは入院が大丈夫かという、病床率ですね。それは最近も心配で聞いたんですけども、入院では一部で院内感染が見られたため、入院患者も増加しておりますが、入院調整は医療機関相互で円滑に進められておまして、直ちに病床がひっ迫するような状況にはないと捉えております。

こうした県内の感染状況が、第9波の兆しかどうかというと、県の医療統括監の話も踏まえますと、第9波という認識には現時点では及んでいない、県内はですね、そういうところです。

総じて5類移行後はですね、約2か月あまり経ったんですけども、大きな支障や混乱はないというふうに推移しているんですけども、ただ、今後の感染状況の動き、医療提供体制のひっ迫状況などをですね、しっかりと引き続き注視していきたいというふうには思っております。

何回も申し上げているのは、ワクチン接種は早めにご検討いただきたい、高齢の方ですとか、基礎疾患のある方ですね、早めにご検討いただきたいということが一つ。あと、やはりメリハリをつけて医療機関や高齢者施設等を訪れる場合にはマスク着用といったように、場面に応じた感染対策をしっかりと行っていただくということでですね、これからも対応していけるのではないかと現時点では思っているところであります。

記者

ありがとうございます。

記者

時事通信の海老沼です。よろしくお願いします。

私からは、中古車販売のビッグモーターについてで、今、全国各地でビッグモーターの店舗

前の街路樹が枯れている問題が発覚していたり、調査を進めている自治体もあるんですけども、山形県としては、街路樹が枯れているかどうかとかそういった問題に対して調査する意向というものはあるんでしょうか。

知事

その話自体は報道で存じているんですけども、ただ、県としてどういう対応をするかというようなことまではね、担当と話をしていないので。県土整備部ですか。

県土整備部次長

県土整備部次長の森谷です。

ビッグモーター、全国的に話題になったということで、県内を調べました。県内にビッグモーターは2店舗ございます。2つありまして、2つとも山形市内ということでございます。

それで、昨日、村山総合支庁のほうで道路パトロールを兼ねまして、ビッグモーター付近の街路樹を調べさせていただきました。そして異常がないということで確認をしております。以上でございます。

知事

県内はそういうことだそうです。

記者

承知しました。ありがとうございます。